江戸時代（１６０３～１８６８）

■8代将軍って、みんな大好き、あの人です…

1716 年、８代将軍の徳川〔1★ヨ　　〕が、

〔2★キ　　〕の改革を行いました。

ちなみに彼は〔3 コ　　〕将軍とも呼ばれました。

さて、彼がやったことは…

■三大改革、第一弾!…

〔4 ア　　〕の制を作って、参勤交代を

ゆるめる代わりにお米を納めさせました。

武士に〔5 シ　　・ケ　　〕を求めました。

〔6 シ　　〕の開発を進めたのも、彼です。

〔7★ク　　〕書という、

裁判の基準をあらわす法律も作りました。

まだまだあります。

〔8 メ　　〕を設置し民衆の意見を聞きました。

〔9 サ　　〕を栽培して、ききんに備えました。

８代将軍　徳川吉宗
御三家の紀伊徳川家から、将軍職に。
米の値段の安定に努めたので「米将軍」と親しまれた。

3 公事方御定書（部分要約）

- 人を殺しぬすんだ者　引き回しの上獄門
- 追いはぎをした者　獄門
- ぬすみをはたらいた者
  金十両以上か十両以上のもの　死罪
  金十両以下か十両以下のもの　入墨たたき

吉宗は、民の声を良く聞く将軍だった。そのため、民が泣き寝入りしないで済むように、裁くことを重視した法律を作ろうと思った。これでできたのが、公事方御定書だ。

お米が大好きな吉宗は、ある日ひらめいた。
「ききんになったら、お米が食べられなくなるな。ぼくは炭水化物が大好きなのに」

こう悩んだ吉宗は、「米将軍」の名にかけて、お米が取れなくなった時のことを考えて、おいもを栽培することを奨励した。

解答欄

1.

2.

3.

4.

5.

6.

7.

8.

9.

答え

1.吉宗
2.享保
3.米
4.上げ米
5.質素・倹約
6.新田
7.公事方御定書
8.目安箱
9.さつまいも

江戸時代（１６０３～１８６８）

■新井白石さんが、海外との貿易を減らした影響…。

６，７代将軍の後、儒学者の〔1　　〕が、

金や銀の海外流出を防ぐために、貿易制限を行いました。

よって、〔2 キ　　・キ　　〕の輸入が減りました。

結果、国内生産が増えました。

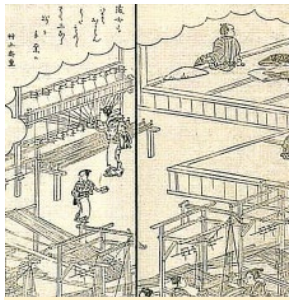
自宅で布を織る〔3★ト　　〕工業と、

地主が、工場を作り、そこで商品を作る、

〔4★コ　　〕工業が発達しました。

群馬県の桐生、栃木県の足利では、

〔5 キ　　〕物が発達しました。



新井白石は、自分の意見が政治に取り入れられるほど、力のある儒学者である。

学者特有なのか、守備力が高い。そのため、徳川綱吉が荒らした貨幣の質を、元に戻した。同時に、金や銀が海外に出ていくことを防ぐために、貿易量を減らした。

その結果、国内のビジネスが発展していった。

解答欄

１．

２．

３．

４．

５．

答え

１.新井白石

２.生糸・絹織物

３.問屋制家内

４.工場制手

５.絹織

江戸時代（１６０３～１８６８）

■ききんが多発して米が取れない…！そこで…。

土地を手放し、

地主に雇われる農民を、〔1コ　　〕人といいます。

農村では、年貢の軽減を求めるために、

農民が団結して、上司（代官様）と

話し合いをすることを、〔2★　　〕と言います。

またこのころ、ききんが多発したため、

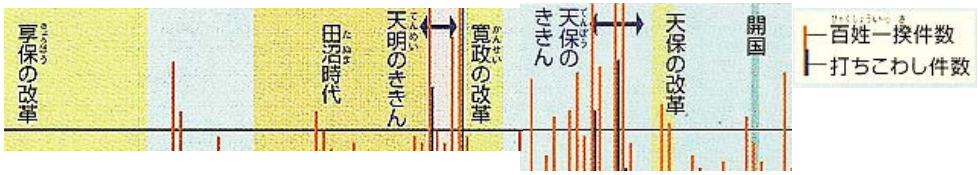
話し合いの末、米蔵を壊すなど、おもわず

手が出てしまう、〔3★　　〕がさかん行われました。

打ちこわしのようす。18世紀になると、「天明のききん」「天保のききん」と、立て続けに雨が降らない時期が続いた。その結果、農村では、年貢の軽減を求め、集団で集まり領主に直訴をする（一揆と言う）ことが度々起こり、血がのぼって、そこから、打ちこわしに発展して行った。

この悪さをしている者たちは、自分たちのリーダーが分からないように、

〔4★カ　　〕という、円形の形の署名を行いました。



きよたか待ってただ！

き　享保の改革
よ　徳川吉宗
た　田沼意次
か　寛政の改革

まっ　松平定信
て　天保の改革
ただ　水野忠邦

唐笠連判状。
一揆のリーダーが誰か見つからないように、円形状に署名した。

一揆：何かを話し合うために、みんなが集まること。
打ちこわし：行動のようす。

解答欄

1．

2．

3．

4．

答え

1．小作人

2．（百姓）一揆

3．打ちこわし

4．唐笠連判状

江戸時代（１６０３～１８６８）

■8代将軍の改革は厳しかった。ききんも多くなった。だから…。

18 世紀後半、老中の〔1★タ　　〕が、〔2 カ　　〕を保護したことで、
わいろが横行しました。また彼は、〔3 イ　　〕沼を干拓しました。

彼は、わいろ政治家と呼ばれています。そんな彼も、
1782 年、〔4 テ　　〕のききんが起こり、老中をやめました。

■江戸の三大改革、第二弾！…

次の老中の〔5★マ　　〕は、〔6★カ　　〕の改革を行いました。
とくに、ききんに備えて、〔7 カ　　〕の制をおこないました。

また、たくさんお米を作るために、
江戸などへの〔8 デ　　〕を禁止し、民を農村に帰しました。

いいこともします。
お米を作ってばかりだと、辛いだろうからと、湯島に、
〔9 シ　　〕学問所をつくり、勉強をする機会を作りました。

1783 年、浅間山噴火。
群馬県と長野県にまたがる浅間山。火山弾、軽石、火山灰が発生。
天明の大飢饉となった。

1783 年 浅間山噴火。
「朝から（浅間山）
闇（1783）に包まれた」

藩札：各藩が発行した紙幣で、藩内だけで使用できるものだった。写真：1662 年の福井藩が発行した日本最古の藩札。

出島（長崎）での貿易。輸出品である銅を量っている。

老中 田沼意次
株仲間を作ることを奨励した。この特権を与える代わりに営業税をかけた。長崎での貿易を活発化させるために、銅の専売制を採用。印旛沼の干拓もした。

老中 松平定信
徳川吉宗の孫。福島の白河藩主。「白河の清きに魚のすみかねて、元のにごりの田沼こひしき」という狂歌が詠まれた。
1783 年の浅間山の噴火により、1787 年、江戸や大阪で、大規模な打ちこわしが起こった。そんな中、寛政の改革を実施。

凶作やききん対策として、出稼ぎに来た農民を故郷に帰した。また、各地に倉を設け、お米を蓄えさせた。

旗本や御家人が札差からしていた借金を帳消しにしてあげた。

朱子学以外を禁止し、有能な人材の登用を図った。

解答欄

1．
2．
3．
4．
5．
6．
7．
8．
9．

答え

1．田沼意次
2．株仲間
3．印旛
4．天明
5．松平定信
6．寛政
7．囲い米
8．出かせぎ
9．昌平坂

江戸時代（１６０３～１８６８）

■鎌倉幕府から600年…

1792 年、ロシアの〔1　　〕が来ました。

1804 年、ロシアの〔2　　〕が来ました。

これ以後、交流のある朝鮮、オランダ、中国以外は、

鎖国状態にあった日本は、ロシアを警戒して、

〔3★マ　　〕が樺太を探検しました。

〔4 コ　　〕が蝦夷地を調査しました。

■江戸時代、後半の文化は…

江戸後半の文化を、〔5★　　〕文化といいます。

〔6★モ　　〕が古事記伝をあらわし

〔7★コ　　〕を大成しました。

〔8 イ　　〕が、日本地図をつくりました。

右は〔9　　〕です。

左は、

〔10　　〕山の

噴火で壊滅した

村の発掘作業の

様子です。

伊能忠敬
北方探検を知った
伊能氏は、「よし、
僕は全国を調査する
ぞ」と行動した。

いい国作ろうから 600 年後の
1792 年、漂流していた大黒屋さん
を助けたロシアのラクスマンが、
蝦夷地の根室に来航し、通商を
求めてきた。「長崎で話し合おう」
と言った幕府に対して…
1804 年、長崎に来たロシアの
レザノフに、「朝鮮とオランダ、
中国だけなんだよ」と断った。

長崎に上陸したレザノフ。
幕府は、本当に来たロシアの使節
に驚き、この後、ロシアを警戒。
蝦夷地や樺太（サハリン）の調査
を間宮林蔵と近藤重蔵らに依頼
した。これを北方探検と言う。

近藤重蔵 1798～1799, 1807
間宮林蔵 1808～1809

1783 浅間山の噴火から、日本に
は、海外勢との付き合いを考える
余裕はなかったのが原因である。

解答欄

１．

２．

３．

４．

５．

６．

７．

８．

９．

１０．

答え

１.ラクスマン

２.レザノフ

３.間宮林蔵

４.近藤重蔵

５.化政

６.本居宣長

７.国学

８.伊能忠敬

９.藩札

10.浅間山

江戸時代（１６０３～１８６８）

■江戸時代後半の文化…

鈴木春信が〔1 ニ　　〕絵と呼ばれる、
多色刷りの版画を始めました。

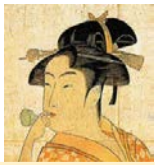
〔2★カ　　〕は、
富嶽〔3　　〕景を描きました。

〔4★ウ　　〕は、大はしあたけの夕立という
風景画を描きました。

〔5★キ　　〕は、〔6　　〕を吹く女、
という美人画を書きました。

この時代、幕府を批判したり世を皮肉る
〔7 セ　　〕や〔8 キ　　〕が流行りました。

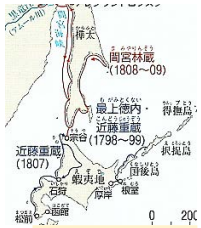
〔9★ス　　〕と前野良沢が、
〔10 ター　〕という、ヨーロッパの解剖書に出会い、
翻訳し、〔11 カ　　〕を出版し、蘭学を広めました。



江戸時代後半。
化政文化。
喜多川歌麿、
ポッピンを吹く女

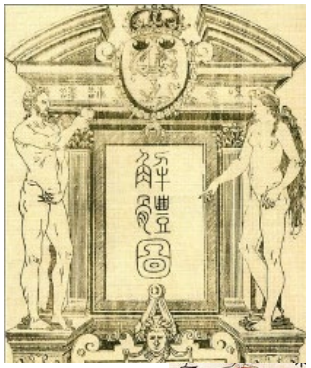
江戸時代後半。
化政文化。
葛飾北斎、
富嶽三十六景。
（神奈川沖浪裏）

1783 年
浅間山噴火。



1798 年
近藤重蔵、
北方探検。

1800 年～
伊能忠敬。
日本地図作成。



いい国作ろうから 600 年後に
ラクスマンが来て、間宮林蔵や
伊能忠敬が、日本を調査した。

「よし、僕は、人の身体を調査
するぞ」と、杉田玄白は誓い、
ヨーロッパの「解体新書」で
ある「ターヘル・アナトミア」
の図を、日本語に翻訳した。

解答欄

１．
２．
３．
４．
５．
６．
７．
８．
９．
１０．
１１．

答え

１．錦
２．葛飾北斎
３．三十六
４．歌川広重
５．喜多川歌麿
６．ポッピン
７．川柳
８．狂歌
９．杉田玄白
10．ターヘル・
　　アナトミヤ
11．解体新書

江戸時代（１６０３～１８６８）

■江戸時代後半の文化…

十返舎一九は、

〔1 ト　　〕というこっけい本を書き、

滝沢馬琴は、

〔2 ナ　　〕を書きました。

★俳人であり、絵のような風景を描く画家でもある、

〔3 ヨ　　〕は、松尾芭蕉の紀行文も、絵で表現しました。

「すゝめの子　そこのけそこのけ　お馬が通る」など、

親しみやすい俳句を詠んだ俳人は、〔4 コ　　〕です。

オランダ人の〔5 シ　　〕は、

医学塾を開き、手術などを行って見せました。

各地に子供用の〔6★テ　　〕を作り、

読み・書き・そろばんを教えました。

ちなみに、大人用の学校は、〔7　　〕と言います。

このように、江戸時代の後半、

文化の中心は、上方（京都・大阪）から、江戸になりました。

この庶民を担い手とする江戸の文化を、〔8　　〕文化と言います。

寺子屋。
京都や大阪などでは、学者が、武士や町人、百姓を対象に、私塾を開いた。

大阪の医者である緒方洪庵の適塾には、全国から弟子が集合してきた。

長崎では、オランダ商館の医者シーボルトが医学塾を開き、手術を見せた。

各藩では、藩校を作り、武士に学問や武道を教えた。

庶民の間にも教育への関心が高まり、町や農村に、多くの寺子屋が開かれ、読み・書き・そろばんなどが教えられた。

解答欄

1．

2．

3．

4．

5．

6．

7．

8．

答え

1．東海道中膝栗毛
2．南総里見八犬伝
3．与謝蕪村
4．小林一茶
5．シーボルト
6．寺子屋
7．藩校
8．化政

江戸時代（１６０３～１８６８）

■ロシアの次は、イギリスが来た。これで 1825 年に…

1808 年、イギリスの軍艦が長崎港に侵入する

〔1 フ　　〕号事件が起きました。

ロシアとイギリス船が来たことで、

1825 年に〔2★イ　　〕令を出し、

外国船をやっつけよう！という決まりを作りました。

■しかし 1837 年に政府は…

しかし 1837 年に、とんだお手つきをしてしまいます。

漂流した日本人を助けてくれたアメリカ船を

打ってしまったのです。

これを、〔3 モ　　〕号事件といいます。

■そして政府を批判したら…

この事件をうけて、渡辺〔4 カ　　〕と高野〔5 チ　　〕は、

外国船を攻撃するな！と、1825 年に出された令を、批判しました。

これで２年後の 1839 年に、

この２人は、処分されました。

これを〔6 バ　　〕の獄といいます。

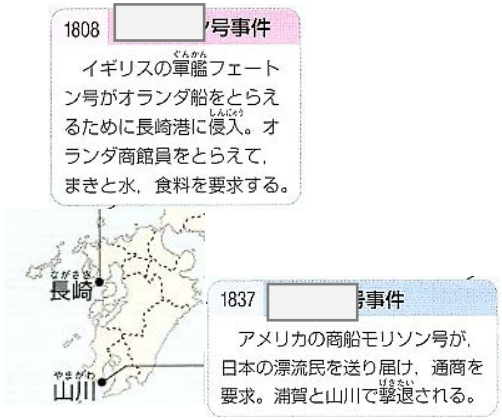
フェートン号事件 1808 年。
ロシアのレザノフ来日(1804)の後 1808 年、イギリスのフェートン号事件が起こった。

イギリスの軍艦が、オランダ船をとらえるために、長崎に侵入して来たのだ。そして、まきと水、食料を要求してきた。この軍艦が、フェートン号なのだ。

異国船打払令　1825 年。
「にこにこできない打払い」

モリソン号事件 1837 年。
フェートン号事件から 30 年。
アメリカの商船が、
日本の漂流民を助けてくれた。
そして、通商を求めてきた。
日本は、砲撃した。
（1825 異国船打払令による）

このアメリカの商船が、
モリソン号である。



解答欄

１．

２．

３．

４．

５．

６．

答え

１．フェートン

２．異国船打払令

３．モリソン号

４．崋山

５．長英

６．蛮社

江戸時代（１６０３～１８６８）

■ふたたび飢饉に…

1830 年には〔1 テ　　〕のききんが起きました。

このききんに対する幕府の対応に

不満を持った元町奉行所の〔2★オ　　〕は、

1837 年に乱を起こしました。

でも 1 日で鎮められてしまいました。

大塩平八郎 1793～1837
1837 年、大塩平八郎の乱。
奉行所の役人にもかかわらず、奉行所に不満を持ち、弟子 300 人と反乱を起こした。が、1 日で倒された。

■3代改革、最後の改革…

1841 年、このききんを乗り越えようと、

老中の〔3★ミ　　〕は、〔4★　　〕の改革を行いました。

彼はまず、〔5 カ　　〕を解散させました。

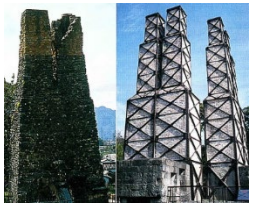
江戸への〔6 デ　　〕に来ている者を、村に帰らせました。

打払い令を中止し、〔7 イ　　〕の干拓を再開し、

江戸から〔8 チ　　〕までの水路を作ろうとしました。…失敗。

老中　水野忠邦
12 代将軍　徳川家慶の信任を受け、1841 年に、天保の改革を行った。
株仲間の解散や江戸に出かせぎに来ている農民を故郷に帰らせた。

前年 1840 年のアヘン戦争を知り、異国船打払令を中止した。
また、イギリスの力を知ったことで、軍事力を強化。
銚子～江戸までの水路を作ろうと、印旛沼の開発を再び開始した。



反射炉
火炎を反射させることで高温を出し、質の良い鉄を作った。
左：長州藩が製造。
右：幕府が製造。

1800 年前後、イギリスやロシアなどがやってきたことで、九州の藩たちは、危機感を持ち、独自に財政の立て直しをはかった。薩摩藩（鹿児島）は、黒砂糖の独占や、琉球との密貿易で利益を上げた。肥前藩（佐賀・長崎）は、陶磁器をヨーロッパに売って利益を上げた。長州藩（山口）は、他の藩にお金を貸し出す金融業を始めた。これらの藩を、雄藩と言い、がんがん力を付けていった。

解答欄

1．

2．

3．

4．

5．

6．

7．

8．

答え

1．天保
2．大塩平八郎
3．水野忠邦
4．天保
5．株仲間
6．出かせぎ
7．印旛沼
8．銚子